



フィリピンの場合には、
リタイアメントビザや永住権として、主なものが2種類ある。

他にもフィリピン人と結婚した場合等のビザもあるが、
特殊な条件でしか使えないでここでは割愛する。

まず、1つ目はSSRV（リタイアメントビザ）。

こちらは35歳以上じゃないと取得できず、
年齢に応じた預託金が必要になる。

※2021年5月以降は年齢条件が50歳以上に変更

また、毎年の更新費用が360USドル。

なぜフィリピンなのにペソじゃなくてUSドルなのかと思うが、
そういうことになっている。

預託金は途中で下ろすことはできない。

セブに購入したコンドミニアムが預託金代わりになるので、
当初はこのSRRVを35歳になった段階で取得する予定だった。

しかし、毎年の費用やコンドミニアム売却後にも
預託金がかかることを考えると、
デメリットが小さくないと思い始めた。

2つ目は、一般にフィリピンの永住権と呼ばれるクオータービザ。

こちらは預託金は要らず、
最初に500万円程度（5万USD）をフィリピンに送金すればいい。

手続き終了後、このお金は自由にできる。

預託金を遊ばせておく必要がないのはメリットとなるし、
お金はフィリピンから出してしまって問題ない。

しかも、毎年の費用が700円程度と非常に安い。

SRRVをやめてクオータービザを取ることにした

フィリピンに移住してきた当初、
観光ビザだけで過ごすつもりだった。

その上で、35歳になった段階で
SRRVを取るというのが当初の予定。

35歳になる頃にはフィリピンを離れているはずだが、
将来に住める国を確保することが目的なので
その段階での居住国がどこかは関係ない。

しかし、この予定を変更してクオータービザを取ることにした。

これは永住権的な性質を持つもので、

特に年齢制限もない。

そのため、今のうちに取得することにした。

なぜSRRVを止めてクオータービザにしたのか？

その理由はいくつかある。

まず、SRRVは5万USドルの預金が必要。

(年齢やSRRVの種類によって金額の違いあり)

これは不動産でも代替できるが、
不動産を売却したら預金をしなくてはならない。

これに対し、クオータービザなら一度5万USDを
海外からフィリピンに送金するだけでいい。

その後、そのお金を他の国に持ち出すのは
まったく問題ない。

つまり、約500万円を寝かしておくのか、
活用できるかの違いがある。

毎年の更新費用もSRRVが360USDと4万円近いのに、
クオータービザは1000円もしない。

期間が積み重なっていくと大きな差になっていく。

年齢制限もSRRVは35歳以上なので3年待ちとなり、
その間に制度が変わる可能性も否定できないのに対して、
クオータービザは制限なし。

そして何より重要な問題として、
今後の権利の継続性ということを考えた場合、
リタイアメントビザにすぎないSRRVよりも、
永住権のクオータービザの方が簡単に失われないという結論に至った。

数年で取り消されでは意味がないわけだし、
できれば生涯効力の続く権利がほしかったので、
この点は圧倒的にクオータービザの方が有利。

永住権を簡単に取れる国なんてほとんどないし、
フィリピンでのチャンスを逃したくなかった。

こうしたことを考えた結果、
SRRV取得は中止にしてクオータービザにした。

マレーシアとフィリピンのビザの比較

海外移住先として人気の高い国と言えば、
フィリピン以外にマレーシアもある。

この2つの国の共通点としては、
穏やかな国民性や物価の安さの他に、
容易にビザを取得できることがある。

両方の国に住んでみたが、
ビザの観点から見た場合、
どちらの方がいいのか比較してみた。

どちらの国もリタイアメントビザや永住権が
比較的簡単に取れる。

マレーシアならMM2H（リタイアメントビザ）。

50歳未満の場合、約1500万円の資産を持っていること、
約900万円の定期預金をマレーシア国内で組むことで
MM2Hビザを取得することができる。

フィリピンのクオータービザなら、
一度フィリピン国外からフィリピンに500万円を送金すれば、
そのお金をずっと国内にとどめておく必要もない。

特に資産要件もないので、
ビザの取得業者によっては500万円の費用も立て替えてくれる。

つまり、取得費用さえ払えれば、永住権を持ってしまう。

マレーシアもフィリピンも、
MM2Hやクオータービザを取ったからといって
一定期間以上住まなければいけないとか、
そういう制限もない。

カナダ等のように1年の半分以上を
その国で過ごすことが義務付けられることもなく、
自由度が高いことが特徴。

すでにマレーシアのMM2Hは取得したが、
こうして比べるとフィリピンのクオータービザのほうが
取得のハードルが低い。

そして、10年更新のリタイアメントビザであるMM2Hは、
すでに取得要件の見直しが現職大臣によって提案されている。

大臣発言では、
現在900万円のマレーシア国内での最低預金額を
6,000万円に引き上げることを検討するということ。

まだ正式に導入されてはいないし、
金額についてもどうなるか分からないが、

10年ごとの更新の際に
新しい基準の最低預金額の預入を義務付けられる可能性は高い。

そうなると、MM2Hは6,000万円もの費用をかけて維持するか、
捨てるかの二択を迫られることになる。

リタイアメントビザの不安定さを物語るエピソードでもあるが、
すでにMM2Hは将来住む国を確保する保険としては
暗雲が立ち込めている。

私がMM2H取得後に
フィリピンのクオータービザの手続きを始めたのは、
継続が見込まれる強い権利、つまり永住権がほしかったから。

余談だが、
マレーシアのビザのハードルが上がれば、
当然移住できる日本人は激減するし、
マレーシア在住者も他の国への移動を余儀なくされる可能性がある。

そうなれば、ビザの取りやすいフィリピンの人気が高まり、
年間50人しか枠がないクオータービザへの応募者が
今より増えるというシナリオも十分に考えられる。

そうなれば、クオータービザも高嶺の花になる日が来るのかもしれない。

それも、遠くない未来に。

クオータービザ取得までの手続き

クオータービザ取得の手続きは、主に4段階となる。

まずは取得サポート業者に申し込みをすると、
必要書類（無犯罪証明等）の用意。

退職庁とのつながりが必要なため、
実質的に個人での申請は不可能に近いらしいし、
サポート業者によっては途中で頓挫する例もあると聞いている。

そのため、どこかの会社にサポートを頼むことになる。

続いては、フィリピンに渡航して
警察本部で指紋の認証や健康診断等がある。

これが2日程度。

その後、再びフィリピンにて退職庁の担当者との面談がある。

これは英語で行うことになるが、
有力な会社だと英語ができない人でも
面談を通してきの実績があるという。

私の時には、なぜか担当官がスマホで姪とテレビ電話をしながら、
その合間に面談というものだった。

さすがフィリピン、ゆるすぎる・・・。



最後は、再びフィリピンに行くものの、
ただビザを受け取るだけ。

クオータービザが取れるとi-cardという身分証明がもらえる。

i-card自体は観光ビザを更新していてももらえるものの、
クオータービザを取ると期限がPERMANENTになる。

こうして3回フィリピンに渡航することになる。

私の場合、3回目の渡航はサポート会社の送迎付き。

空港からホテルまで送ってもらい、その時にパスポートを預ける。

それから5日後にホテルから空港まで送ってもらい、
パスポートとi-cardを受け取った。

通常、i-cardは1週間ほどたってから発行されるのが基本で、
同時発行はまれなケースらしい。

こうして、無事にクオータービザを取得できた。

フィリピンの観光ビザの更新料は無料だった

永住権の申請をしたからといって、
即時に発行されるわけもない。

私はマニラに住み始めてから手続きを開始したので、
無犯罪証明も日本大使館を通して取り寄せることになり、
それだけでも2ヶ月以上かかった。

結局、マニラに住んだ1年は常に観光ビザを
更新し続けたことになる。

観光ビザの更新には費用がかかる。

自分で移民局に出向いてもそうだし、
代行業者にお願いして行ってもらいうこともできる。

マニラの移民局はイントラムロスと呼ばれる地区にあり、
マカティからは渋滞を入れてタクシーで1時間ほど。

往復だけで2時間かかり、
当然ながらフィリピンの役所なので散々待たされる。

その手間を考えると、
わざわざ自分で観光ビザの更新に行く気にはならず、
代行業者にお願いしていた。

ビザ関連のサポートをしている会社とか、
旅行会社が代行してくれるので、
更新料に若干上乗せすると行ってくれる。

パスポートの引き渡しは自宅のコンドミニアムに
来てくれる会社もあるし、
相手の会社に訪れる場合もある。

このへんはサポート業者次第。

パスポートを預けるのは最初不安だったが、
実際には何の問題も起こらなかった。

各地を旅していると、
パスポートなんて毎回ホテルでコピーを取られているし、
そうそう悪用できるわけではない。

まして信頼できる会社であれば、なおさら安心。

更新料だが、細かいことは忘れた。

というのも、
フィリピンの観光ビザの更新料は細かく分かれている。

最初の21日は無条件に入国時に与えられるが、
これが今は30日に延長された。

その後、次は30日しか延長できないとか、
エイリアンカードという身分証明を
発行しなければいけないので料金がかかったり。

さらにその後は1ヶ月か2ヶ月の延長を選択できたが、
2013年の途中から6ヶ月というコースも新設された。

それぞれに更新料も違う。

とは言え、
観光ビザの更新を代行してもらっても、
大きな費用が上乗せされるわけではない。

せいぜい数千円。

日系の会社にお願いしても、
実際に移民局に行くのは人件費の安いフィリピン人なので。

役所への更新料も含めて6,000ペソぐらいかかった時があったが、
それが何ヶ月の更新だったのか不明。

今となっては思い出せない。

ただ、これだって15,000円ぐらいになるわけだし、
何度も繰り返すとそれなりの負担になる。

どのみち永住権を取るわけだから、
さっさと手続きをしておけばよかつた。

積もり積もって更新料の費用がかかる上、
期日を忘れないようにしなければいけないという

手続き上の問題もある。

そんな状態を続けるよりは、
事前にクオータービザの必要書類を取り寄せて
移住後にすぐに申し込みをした方がよかつた。

フィリピンの観光ビザの更新料を払っても、
残るものは何もない。

それなら早くに永住権を持っておいた方が得。

結局1年も無駄に払い続けてしまったので、
その点は少しもったいなかつたと思う。

永住権はいつ取れなくなるか分からない

これまでの各国の歴史を見ても、
永住権は突然に発行が終了することが主流。

発行する側としては、
事前に告知して申し込みが殺到すると
永住権の発行数が読めなくなる。

さらには業務の遅延等にもつながるわけなので、
いきなり停止した方が都合がいいことになる。

こうして、制度の変更が知らされた時には、
永住権を取れなくなるということが各国で繰り返されてきた。

まして、クオータービザは年間で50名という枠もある。

現在でも枠の取り合いという部分がある上、
発行条件の厳格化や発行停止というリスクを考えると、
取れるうちに取っておくというのが妥当なところ。

今すぐ必要でないとしても、

取る予定があるのなら 1 日も早く行動した方が安全ということになる。

私自身、マニラに移住してからクオータービザを申請したが、そのままフィリピンに住み続ける予定ではなく、また他の国に移住する予定。

それでもクオータービザを申請しておいたのは、今なら確実に取れるから。

手遅れになる前に権利を確保しておきたかった。

フィリピンのビザ取得業者の惨状

クオータービザの実際の取得手続きは自分で行うわけではない。

フィリピンの役所と個人でやりあうにはあまりにも時間と労力とストレスがかかる。

しかもクオータービザの場合、前述のように力のある業者を通さないと取得できないという現実も。

取得後のケアの問題もあるので、この業者選びは非常に重要になる。

ここで失敗すればフィリピンでビザが取れないとか、取った後のサポートがないといったことになる。

ある意味、どこに依頼するかがもっとも大切な部分。

この部分で間違えなければ、あとは業者が具体的な手続きはサポートしてくれる。

というわけでフィリピンに移住してからビザの取得業者について慎重に調べた。

時には現地在住の人から話を聞いたりもして、
アフターサポートまで含めて確実な会社を見つけるために。

結論として信頼できる会社が見つかったのだが、
それまでにおかしな会社・個人をいくつか発見することになった。

過去に費用を持ち逃げされたという話も耳にした。

個人レベルで取得を請け負っている場合、
いつ逃げるか分からぬ状態にある。

しかも最初は善意で取得を代行しようとしても、
やってみたら上手くいかずに逃げる例も。

フィリピンの役所とのコネが思ったように機能せず、
結果的に相手をだましたことになる例もあると聞く。

マニラ在住の日本人にはフィリピン人と結婚している人もいるので、
親戚や友人の話を真に受けてコネが使えると思い込んでしまい、
それが問題になることもある。

最初のうちは善意である分、見抜くのは難しいのだろう。

こういったフィリピンのビザ関係の業者の惨状を見て、
実績のある会社に頼むことにした。

マニラ在住歴の長い友人達にも話を聞き、
評判のいい会社だったので大丈夫だろうと。

それにしても、なかなかの魑魅魍魎ぶりというのが、
この業界を調べてみた結果だった。

各国で日本人向けに不動産を扱う業者も
色々内部事情を聞いていくと問題を抱えている事がが多いが、
ビザ関係はそれ以上という印象。

しかも重要な問題だけに、
業者選びに失敗すると大きなダメージを負う結果になる。

なかなか怖いところだ。

マレーシアでMM2Hビザを取った時もそうだったが、
料金が安いだけでサービスが穴だらけとか、
そういうた業者が存在するのも事実。

個人的には永住権という重要な要素においては
安さより取得の確実さやサポートの丁寧さを重視した。

取得したら終わりではなく、
活用するためにもサポートはほしい。

ただし、この点は業者によって対応がまちまちなので、
その点は要注意となる。

私がクオータービザの取得をお願いした会社であれば、
連絡をいただければ紹介することができるので
その場合は以下まで連絡をどうぞ。

フィリピンビザに関する相談はこちらからどうぞ

マカティに住んでから半年程度を調査に費やしたし、
その後の対応もしっかりしている会社なので、
安心して任せることができる。

日系の会社なので、日本語が通じるのでその点も安心。

ひとまず、フィリピンのビザレポートはここで終了。

移住関連の情報については引き続きメールを送るので、
そちらも参考にしていただければと。